

豆類技術情報 No. 1

平成30年5月31日
JA大潟村営農支援課
豆類生産組合

豆類の播種準備について

田植え作業もほぼ終了し、豆類の播種期が近づいて来ましたので次の事項に注意し、播種準備を行ってください。

1. 圃場準備

- (1) 雑草対策: 除草剤散布による除草もしくは耕起回数を増やし、雑草対策には万全を期してください。
- (2) 排水対策: デッチャー、モールドレナー等で明渠や弾丸暗渠を実施し、圃場の乾燥に努めてください。
- (3) 酸度矯正: 土壌の酸度を測定しpH6に矯正する。(石灰施用量pH5.0の場合: タンカルで10a当り砂地100kg、ヘドロ地200kg施用が目安)。新しく暗渠を施工した場所は多少土壌pHが高くても石灰を散布してください。
- (4) 施肥: 基肥のN分量は下表を参考にしてください。また、10a当りP:15~20kg、K:5~10kgを目安に施用してください。

品種名	作付区分	全面全層施肥量 (N分量/10a)	側条施肥量 (N分量/10a)
リュウホウ	本作	3kg	1.5kg
リュウホウ	後作	3~4kg	1.5~2kg
秋試緑1号	本作(条播)	3kg	1.5kg
あきたみどり	本作(条播)	2~3kg	1~1.5kg

※初期生育が不良の場合は尿素などで追肥を行う。

- (5) 耕起碎土: 発芽率向上のため、碎土率(2cm以下の土塊)は70%以上に努めてください。
排水の悪い圃場では土壌が締まるため、窒息状態となり発芽率が低下しますので注意してください。

2. 播種準備

(1)鳥害・紫斑病防除：クルーザーMAX X を種子 30kg に対し 1 本（240cc）粉衣してください。またはキヒゲン R-2 フロアブルを種子 10 kg に対し、1 袋(200cc)粉衣してください。

(2)根粒菌：初作目の圃場は根粒菌を粉衣すると根粒着生が良くなります。（10a に播種する種子に対し、「まめぞう」1 袋使用）

(3)播種量及び播種適期：播種期は降雨等考慮しながら実施してください。

品種名	作付区分	播種量(kg/10a)	播種適期
リュウホウ	本 作(条播)	4～5	6月5日～6月15日
	本 作(散播)	8～10	6月15日～
リュウホウ	後 作(散播)	9～11	6月25日～
	後 作(条播)	5～6	7月10日
秋試緑1号	本 作(条播)	5～6	6月5日～6月15日
あきたみどり	本 作(条播)	5～6	6月10日～6月20日

※栽植密度：条播は18,000本程度／10a 散播は34,000本程度／10a

3. 除草剤散布(土壌処理剤)

播種後4日以内に下記のいずれかの除草剤を散布してください。

- ①ラクサー粒剤：4～6kg／10a(イネ科、広葉雑草が混在する場合)
- ②エコトップ粒剤：4～6kg／10a(イネ科、広葉雑草が混在する場合)
- ③ラクサー乳剤：10a 当り水量100ℓ に対し薬量400～600cc を希釈
- ④エコトップ乳剤：10a 当り水量100ℓ に対し薬量400～600cc を希釈
- ⑤フルミオ WDG: 10a 当り水量100ℓ に対し薬量10g を希釈して散布する。
1本で1ha 散布可能。イヌホオズキやキク科といった広葉雑草に高い効果があるが、イネ科雑草には効果が劣る。

※散布の際には、他作物への飛散（ドリフト）には十分注意してください。

※フルミオ WDG は他作物への薬害の恐れがありますので散布器のタンク、ホース、ノズル洗浄の徹底をお願いいたします。

4. ネキリムシ等の防除

成虫の飛来状況によっては発生が多くなりますので、つぎの薬剤で防除に努めてください。

- ①クルーザーMAXX ：種子30kg 当り原液1本（240cc）を種子粉衣（鳥害、紫斑病防除も兼ねる。）
- ②ダイアジノン粒剤5：6kg／10a 耕起前に全層散布又は、播種時に同時施用
- ③カルホス微粒剤F：6kg／10a 耕起前に全層散布又は、播種時に同時施用